

# 瀬田川プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当  
平成11年4月12日 第2報

## 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Anabaena</i> sp.*	1		
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	10		
(黄鞭) <i>Chromulina</i> sp.	50		
(黄鞭) <i>Chrysamoeba radians</i>	130		
(珪) <i>Melosira granulata</i>	17		
(珪) <i>Melosira granulata</i> var. <i>angustissima</i>	26		
(珪) <i>Melosira distans</i>	10		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	900		
(珪) <i>Rhizosolenia longisetata</i>	10		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	160		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	48		
(珪) <i>Synedra acus</i>	30		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	20		
(渦) <i>Peridinium berolinense</i>	260		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	160		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	440		
(緑) <i>Golenkinia radiata</i>	40		
(緑) <i>Treubaria setigerum</i>	10		
(藍) 藍藻綱	1	0.0	0.5
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	190	8.2	6.4
(珪) 珪藻綱	1221	52.6	48.2
(渦) 渦鞭毛藻綱	260	11.2	7.9
(褐) 褐色鞭毛藻綱	600	25.8	35.2
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	50	2.2	1.7
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	2322	総体積	9.84E+05
種類数	18	( $\mu\text{m}^3$ )	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)  
ただし\*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。

## 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/l)
繊毛虫類	<i>Stokesia</i> sp.	130

第 2 優 占 種		個体数 (個体/l)
繊毛虫類	<i>Paradileptus</i> sp.	50

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

### 植物プランクトン第1優占種

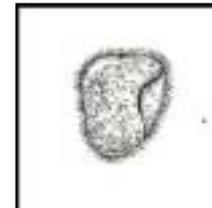
#### *Cyclotella glomerata* (ヒメマルケイソウ) 珪藻綱



細胞は、横から見ると長方形に見えるが、真上から見ると円形に見える。その直径は4~10 $\mu\text{m}$ と小さい。多数が鎖状に結合して群体をなす。

### 動物プランクトン第1優占種

#### *Stokesia* sp. (ストケシア) 繊毛虫類



個体の腹側は平らであり、密に繊毛が生えている。体の周縁部に比較的長い繊毛を持っている。繊毛虫の仲間では、大型の種類である(個体の長さ100~200 $\mu\text{m}$ )。南湖において春季に観察されている。

コメント: 植物プランクトンは、ヒメマルケイソウが最も多かった。「淡水赤潮」の原因となる黄色鞭毛藻のウログレナは先週より少なく、群体としては見られなかった。動物プランクトンは、繊毛虫類のストケシアが130個体/lで最も多く、次いで同じく繊毛虫類のナガマルドロムシが50個体/lと多かった。